

その6

第2部：聖書に反する行為の暴露

第5章：肉的な武器-生垣

そろそろ、ちょっとした曲がり角に差し掛かっています。

これまでに取り上げてきた内容は、ある種の実践を評価するための聖書的な枠組みを構築するのに役立ちました。

霊的戦いに関する聖書的な神学を構築するための基礎を築いてきました。

私たちは、霊的戦いの神学を支配するのは、聖書であり、聖書だけであると断言しました（第1章）。

私たちは、2コリント人への手紙10章から、霊的戦いとは、悪魔との領土をめぐる手と手の戦いではなく、神の言葉を用いた真理をめぐる戦いであることを見てきました（第2章）。

私たちは、3つの敵と、それらがどのように連携しているかについて考えてきました（第3章、第4章）。

次の数章では、霊的戦いに関連してよく行われるある実践を評価します。

これらの実践は、多くの人が聖書に基づいていると考えています。

ある種の霊的戦いのテクニックの言葉は、キリスト教の言葉の中に入り込んでいて、善意の信者たちは、しばしば聖書に照らして評価することなく、これらの方法を採用しています。

なぜ悩むのか？上司の命令を無視して、自分の思い通りに戦闘を進めることを選んだ前線の兵士を想像してみてください。

その兵士は、自分の敵との戦い方が上官のやり方よりも優れている、あるいは効果的であると考えているかもしれません。

自分が長年実践してきたことが間違っているはずがないと信じているかもしれません。

どんな動機であっても、指揮官の命令に従わず、上司の定めた境界線を越えて行動することは、明確な命令に対する重大な反抗であり、不服従です。

我々には、我々の戦い方を説明し、我々に任務を与え、我々に戦いのための装備を与えた最高司令官がいる。

もし彼が、この真実のための戦いをどのように行うべきかについて命令しているのであれば、私たちが彼の指示を無視して、彼が承認も命令もしていない方法論を採用することは、良くては怠慢、悪くても不従順です。

私たちの上司は、単なる誤りやすい人間ではありません。

彼は無謬であり、全知である。

主が命令も承認もしていない靈的戦いの実践に従事することは、不従順であり、反抗的であり、明らかに愚かなことです。

なぜ私たちは、人間が作った肉体的な武器を使って、このような強力な敵と戦いたいのでしょうか。

なぜ、自分の力で生き、戦おうとするのでしょうか。

それは災いを招くことになります。靈的戦いについての現代的な理解に入り込んでいるある種の慣習を評価することが必要です。

これからお話しすることは、あなたが読んだことがあったり、他の人がやっているのを見聞きしたり、あるいは自分でやってみたりしたことがあるかもしれません。

私は、善意の人々が靈的戦いに関して多くの偽りのことを教えてきたと主張します。

その中には、現代アメリカの福音主義の縦糸と横糸の一部となっているものもあり、それらに疑問を抱くことは反逆行為となります。

しかし、私たちは質問しなければなりません。

私たちには、自分の考えや行動を聖書に照らして評価し、自分の人生を神の御言葉に合わせるようにする責任があります。

もし靈的戦いについて教えられてきたことが、聖書の本文に基づいていないのであれば、その実践がどんなに大切なものであっても、またどんなに効果的であると感じていても、私たちはすぐにそれを捨てるべきです。

もし私たちが自分の実践の詳細を聖書に照らして分析しないならば、私たちは自分の「肉の武器」を聖書のパラダイムに差し込むことになってしまいます。

その結果、混乱が生じ、効果のない戦いになってしまうのです。この先の章では、憎しみに満ちた批判を意図したものではありません。

どうか、そのように受け取らないでください。

批判は、それが正しく行われていれば、良いことです。

私たちの願いは、私たちの考え、動機、実践、信念を神の御言葉の金床に叩きつけ、神が啓示した真理に一致させることです。

真理を教えるために必要なことは、誤りを明らかにし、訂正を行うことです。神の民が聖書に反する行為をしている場合、愛に満ちた行動とは、それを指摘して正すことです。

その人の霊的な幸福にとって危険となるような誤りを続けさせることは、愛のないことです。

誤った方法で戦いを行うことは、戦いを行わないのと同じか、それ以上に悪いことです。

私の祈りは、神の民が、非聖書的な考え方や、聖書外の実践、非聖書的な実践を捨て、神の御言葉の中で私たちに与えられた司令官の命令と模範に従って、真の霊的戦いに従事することです。

もし私たちが誤った実践に取り組み、現在使われている非聖書的な方法論を明らかにしなければ、その代わりに聖書的な方法論を構築することはできません。

現在、古くて役に立たない建物があるところに、新しい建物を建てることは不可能です。それゆえ、建設が行われる前に、建設予定地を少し破壊する必要があります。

織り込まれているもの

サタンを縛る、「いばらの生け垣」を祈る、世代間の呪いを放棄する、地縛霊に名前をつけて祈る、クリスチャンや異教徒、無生物から悪霊を追い出す、悪魔を叱る、イエスの血を嘆願するなどの実践は、現代の霊的戦いの概念に事実上織り込まれています。

これらの行為の正当性は疑われることはありません。

これらは、一部の人々や教会の祈りや生活の一部となっているため、その正当性を疑うことは、ある界限では「異端者」とみなされてしまうのです。

これらのことについて読んでいる人の中には、この本を読む前に、このような教えや実践に触れたことがない人もいないのではないかと思います。

非常に幸運なことだと思しましょう。

実際にこのようなことをしている人がいるなんて信じられないかもしれませんが、私を信じてください。

このようなことは、キリスト教の中の一部の過激な運動に限ったことではありません。

これらのことは、キリスト教の中でも、原理主義的、保守的、聖書を信じている、福音を中心とした教会で教えられています。

これらのことは、カリスマ的な運動に特有のものではありません。

私は、ここで評価されている方法論を実践したり教えたりしている人たちの意図を疑っているわけで

はありません。

私はその実践を評価しようとしているだけです。

Praying the Hedge of Thorns

もしあなたがこの教えに触れたことがなければ、「いったいこれは何なんだろう??」と思われるかもしれませんが、これは、人や場所、物の周りに「霊的な垣根」を作って、悪魔の影響や攻撃を防ぐためのものです。

「いばらの生け垣」が祈られると、サタンやその悪霊が通り抜けられなくなります。

これは、サタンを縛るという行為とは異なります。

これは、サタンを縛ることとは違います。サタンを縛ると、サタンができるはずのことができなくなります。

いばらの垣根を祈ることは、サタンの能力を奪うのではなく、サタンから誰かを守ることになります。

「垣根の祈り」の実践は、垣根に守られている人の人生や心に、悪魔やサタンの影響が及ぶのを防ぐと教えられています。

あなたの配偶者、家族、家、子供、仕事、車、教会、あるいは町のために祈ることもあるでしょう。

もしあなたが未信者をキリストに導きたいのであれば、まずその人の周りにいばらの垣根を祈り、悪魔の攻撃や影響を受けないようにします。

「生け垣を祈る」人は、たいてい次のように祈ります。

「主よ、イエスの御名によって、この家の周りに保護の生け垣を祈ります。イエスの御名によって、私の子供たちの周りにいばらの垣根を祈ります。救いを必要としているボブの周りに垣根ができるように祈ります。そして、主よ、イエスの御名において、今週の日曜日の教会の礼拝の周りにいばらの垣根ができるように祈ります。」

霊的戦いの専門家からは、1日に数回とは言わないまでも、少なくとも毎日、定期的に祈ることを勧められています。

これは、時間が経つと垣根が壊れてしまうからなのか、それともサタンが狡猾に垣根を越えたり通り抜けたりする手段を見つけているからなのかはわかりません。

もし、この方法が効果的であれば、1回で済むのではないのでしょうか。

なぜ、すべてのものの周りに保護の垣根（いばらの垣根）を祈り、サタンの影響をまったく受けないようにすることができないのでしょうか？

もっと言えば、サタン自身とそのすべての悪霊の周りにいばらの垣根を祈ればいいのではないでしょ

うか？

悪魔が入ってこないようにすべての人の周りに垣根を作るのではなく、悪魔が入ってこないように彼の周りに垣根を作って祈ってみてはどうでしょうか？

それは、サタンのための「いばらの生け垣」の刑務所です。

私がこの教えに初めて触れたのは、ワシントン州スポケーンで開催されたビル・ゴタード氏によるビデオ講義「Basic Youth Conflicts Seminar」でした。

彼はこの実践に触れ、効果的な方法を詳しく説明してくれました。彼はまた、ホセア2：6とヨブ1：10という「裏付け」のある文献を引用しました。

私がこの教えをより発展させた形で知ったのは、それから間もなくのことでした。それは聖書的なものでした。

サタンが人や場所に影響を与えるのを禁止するために、この方法を使うのは理にかなっていると思いました。

聖書の箇所を調べてみると、確かに「垣根」のことが書かれていました。私はそれが聖書に基づいたものであると思いました。

しかし、これらの聖句が本当に教えていることなののでしょうか？

よく引き合いに出される聖書の箇所を調べてみると、「垣根に祈る」ことの聖書的な裏付けは実に薄ぺらいです。

これらの文章をそれぞれの文脈に沿って見てみましょう。

ホセア2：6「それゆえ、見よ、わたしは彼女の道をいばらで覆い、彼女に壁を築いて、彼女が道を見つけられないようにする。」

一見して、「垣根」と「いばら」に言及していることに気づくでしょう。

それを見て、ある人は「ほら、これだ！」と言います。「ほらね、あるでしょう?!これこそが『いばらの垣根』なのだよ」と。

聖書を注意深く学ばなければ、ある節で「垣根」と「いばら」が言及されているだけで、上記のような手の込んだ行為に十分裏付けをとることができます。

この聖句が出てくる文脈を考えると、その真の意味がわかり、ホセアが考えているような、悪魔の力に対して「垣根を作るために祈る」という習慣はないことがわかります。

実際、これは、ある節をその文脈から切り離して、その節の意味や意図とは全く異なる教えを支持するために使っている完璧な例です。

保護ではなく処罰

ホセアは、神がイスラエルの国に対して異常な教訓を与えるために召された預言者でした。

神はホセアに「遊女の妻を娶り、遊女の子を産め。この地は主を捨てて激しい遊女行為をしているからだ」と命じました。

ホセアはこれを実行し、ゴメルと結婚しました（1:2-3）。

ホセアとゴメルの子供たちに与えられた名前も、国へのしるしとメッセージとして預言的な意味を持っていた（1:4-11）。

これは、強力な予言的教訓でした。

娼婦、姦淫、不浄の行為は、国民の靈的背教の汚れと汚染の性質を示すのによく使われます。

契約上の神を捨てて、他の神々に偶像崇拜することは、遊女や姦淫の罪と同じです。

ホセアのゴメルとの結婚と、その後のゴメルの不貞行為は、神とイスラエル民族との契約関係と、彼らの執拗な偶像崇拜によるその契約の汚染を鮮明に描き出しています。

彼らの背教は遊女に例えられました。ホセアの預言の第2章はそのような文脈の中で書かれています。そのことを念頭に置いて、民族の不貞に対する強調された言及に注意しながら、文脈全体を読みましょう。

ホセア 2:1-13 1 「あなたの兄弟に『アンミ』と言い、あなたの姉妹に『ルハマ』と言いなさい。彼女はわたしの妻ではなく、わたしは彼女の夫でもないからである。そして彼女の顔から遊女を、胸の間から姦淫を捨てさせよ。わたしはまた、彼女を荒野のようにし、砂漠のようにし、渇きで彼女を殺します。4 また、その子らをあわれまない、それは彼らが遊女の子だからである。5 彼らの母は遊女を演じ、彼らを身ごもった者は恥ずべき行為をしたからです。彼女は言った、「わたしのパンと水、羊毛と亜麻、油と飲み物を与えてくれるわたしの恋人たちを追いかけよう」。6 それゆえ、見よ、わたしは彼女の道をいばらで囲み、彼女が自分の道を見つけられないように、彼女に壁を築くであらう。

7 彼女は恋人たちを追いかけますが、追い越すことはできず、彼らを探しますが、見つけることはできません。そのとき彼女は言う、「私は最初の夫のもとに帰る、今よりもそのときのほうがよかったから」。

8 彼女は、穀物、新しいぶどう酒、油を彼女に与え、彼らがバアルのために用いた銀と金とを彼女に与えたのはわたしであることを知らないからである。

9 それゆえ、わたしは収穫の時にわたしの穀物を取り戻し、その季節にわたしの新しいぶどう酒を取り戻そう。わたしはまたわたしの羊毛と亜麻とを取り去って、彼女の裸をおおうであらう。

10 わたしは彼女の恋人たちの目の前で、彼女の淫らさを暴き、だれも彼女をわたしの手から救い出すことはできない。

11 わたしはまた、彼女のすべての遊び、彼女の祭、新月、安息日、および彼女のすべての祭りの集会を終わらせる。

12 わたしは彼女のぶどうの木といちじくの木を滅ぼす。わたしはその木を森にして、野の獣がこれを食い尽くすようにする。

13 わたしは、彼女がバアルに犠牲をささげ、耳飾りや宝石で自分を飾り、恋人たちに従ったために、わたしを忘れてしまったバアルの時代について、彼女を罰する」と主は宣言される。

間違いようがないです！

この箇所は、靈的な戦いと関係があるように聞こえますか？

悪魔の影響や悪霊の圧迫を防ぐ方法や、義人を守ることに関係しているように聞こえますか？

そうではありません。実際、この箇所では、保護ではなく、裁きについて書かれています。

ホセアは、国家に対する神の裁きを描いています。

それは、彼らが神のもとに戻るように、「いばらで彼らを囲う」ことでした。

この文章は、神の民をサタンから守ることとは何の関係もありません。

それは神の民のために行われたのではなく、彼らに対して行われたのです。

いばらの垣根は保護ではなく、裁きです。

神は、この国がその精神的な遊女行為に対して厳しい裁きを受けようとしていることを明らかにしていました。

神は「いばらで彼女（国民）の道をふさぎ」、「彼女（国民-契約による神の民）に対して壁を築き、彼女が自分の道を見つけられないようにする」のです。

神が茨で囲うと約束した「道」とは？それは、国民の偶像崇拜の道、つまり、他の神々を追い求める道です。

彼女は、「私は自分の恋人たちを追いかけます」（5節）と言いましたが、これは精神的な遊女を追いかけていることを意味します。

彼女は自分の恋人たちを追いかけますが、追い越すことはありません（5節）。

彼女は彼らを探しますが、見つけることはできません（5節）。

彼女はかつて、自分の恋人たちを追いかけていた（13節）。

神がホセアを通して描写しているのは、このような精神的な姦淫や遊女を追いかける不義の道です。

この国に対する神の裁きは、困難と苦痛の道であり、いばらのような垣根で覆われています。

この比喩はわかりやすいもので、まっすぐな道の両側にいばらが生えているような道を想像してください。その道を右に曲がったり左に曲がったりして外れようとする、いばらにぶつかることになり、悲惨なことになります。

実際、そのことは次の節で明らかになっています。

ホセア2：7には、「彼女は恋人たちを追いかけても追いつけず、彼らを探しても見つけられない。その時、彼女はこう言うだろう、『私は最初の夫のもとに戻るわ、あの時の方が今よりもよかったのだから』と。

神が国民をその邪悪な道から遠ざけようとした意図は、精神的な遊女の悲惨さを経験したときに、彼らが「私は最初の夫（神-彼らの契約のパートナー）のもとに戻ろう」と言うようにするためでした。

“神は不貞な国民にどのような種類の悲惨さ（茨）を約束されたのでしょうか？

この章のリストを見てください：

彼女は裸にされます（3節）。

さらし者にされる（3節）。

彼女は荒野のようにされる（3節）。

砂漠の地のようにされる（3節）。

渇きで殺される(v. 3)。

神は憐れみの心を持たれません（4節）。

神は収穫時の穀物の供給を差し控えられる（9節）。

神はぶどう酒の供給をお止めになります（9節）。

神は羊毛と亜麻の備えを取り去られます（9節）。

神は彼女の淫らさを暴かれます（10節）。

神は彼女の悲惨な状況からの救出を妨げられる（10節）。

神は彼女の幸福に終止符を打ち（11節）、

祭りの集会や祝い事が終わる（11節）。

神はぶどうの木やいちじくの木を破壊されます（12節）。

彼女はバアルを崇拜したために罰せられます（13節）。

これらのことはすべて、神の民を苦しめる茨のようなものです。神は、「他の神々と交わったために、この国に裁きを下そう。

「私は、この国の人々が他の神々と交わったために、この国に裁きを下す。」

もしあなたがホセアにこう言ったとしたら、「ああ、私たちはサタンや悪魔の影響から守るために、愛する人の周りにこの『いばらの垣根』を祈ることができるのですね」と答えるでしょう！

明らかに、そのような考えは文脈からは全く外れています。

ホセア2：6は、靈的戦いや悪魔からの保護とは全く関係がありません。

何もありません。それは、国を罰し、偶像崇拜の欲望を追求するのを防ぐための、神の裁きの行為を意味しています。

ホセア2章には、そのような垣根が祈りによって作られることを示す記述はありません。

これが祈りの結果であると教えるものは何もありません。

サタンについても、このような「いばらの垣根」がサタンの活動をどのように妨げるかについても言及されていません。

そのような垣根を作るために、あなたや私が何かできるということもありません。

それは文字通りの垣根でもありません。

それは、保護ではなく罰の比喩です。

これは言葉のあやであり、靈的戦いとは全く関係のないものです。

ヨブ記1章では、義人ヨブを守った垣根について触れられていませんか？

そうです。実際、保護の垣根を祈るという習慣を支持するために使われている2つ目の箇所は、ヨブ記1:8-10です。

主はサタンに言われた、「あなたはわたしのしもべヨブを考えたことがあるか。主はサタンに、『わたしのしもべヨブを考えてみたか。』

彼のように神を畏れ、悪から遠ざかる、非の打ちどころのない、まっすぐな人は、この地上には一人もいないからです。

そこでサタンは主に答えました、「ヨブが神を恐れるのは何のためでしょうか。ヨブは何のために神を恐れるのですか。あなたは彼と彼の家と彼が持っているすべてのものを四方八方から囲んでおられませんか。あなたは彼の手の働きを祝福し、彼の持ち物はこの地で増えています。しかし、今、あなたの手を出して、彼の持っているものすべてに触れてください。彼は必ずあなたの顔を見てあなたを呪うでしょう。」

「サタンがヨブを襲わないようにするための保護の垣根があるじゃないか」と言う人がいます。

確かにその通りです。

しかし、この文章は、多くのキリスト教界でよく見られる「垣根に祈る」という精巧な神学と実践を支持するものでしょうか？

この生け垣は何で、どこから来たのでしょうか？

この垣根は、明らかに神がヨブを主権的に保護し、祝福しているものでした。

このことは、サタンが、ヨブが神を呪うことを示すために、そのような祝福と保護を取り除くように神に挑んだことから明らかです。

ヨブ記の第一章全体を読めば、それが霊的戦いのマニュアルではないことがわかるでしょう。

ヨブ記1章では、私たちが影響を与えることのできない霊的領域を垣間見るができます。

それは、神が主権を持ってご自身の民を守り、主権的でご自身を輝かせる目的のためにその守りを継続させたり、取り除いたりすることです。

ヨブ記1章は、霊的な戦いの戦術を規定するものではありません。

それは、著者の心と文脈から最も遠いものです。

この箇所では、この垣根がいばらで作られていたと書かれていますか？

そうではありません。

この垣根は、ヨブや彼に代わって他の人が行った霊的戦いの祈りに応えて設置されたと書かれていますか？

実際には、これはヨブに対する神の主権的な保護であり、神の許可なしにはサタンが侵入できないものでした。

これは、神と神のみによって設置され、神と神のみによって取り除かれました。

この垣根について言えることは、神がヨブと彼のすべてのものを主権的に保護していることを意味しているということです。

このために祈れとは言われていません。

また、誰かがこのために祈ったという例もありません。

この箇所では、サタンの力が神の主権的な手によって制限されていることを見ているだけです。

私は、このような垣根は、すでに一人一人の信者、つまりすべての聖人が現在持っているものだと主張します。

サタンは、できることなら私たち全員を殺したいと思っています。

サタンが神の民に危害を加えたり、殺したりするのを防ぐのは何でしょうか？

それは、神の民に対する神の主権的な保護に他なりません。

なぜ私は今、死なないのでしょうか？

なぜ私の妻や子供たちは、どんな時でも守られているのでしょうか？

神は主権的な手で悪を抑えておられます。

サタンには鎖がついていて、それは神が許す範囲内でしか伸びません。

ヨブ記1章から学ぶことの一つは、もし私たちが何かから守られているとしたら、それは神が私たちを守っているからだということです。

もし私たちが何かから守られていないとしたら、それは神がそれを許しているからです。

明らかに、悪魔の影響や攻撃から人を守るために、そのようなサタンに対する保護を構築することができ、特定のマントラスタイルの祈りを通して構築する必要があると教えることは、書かれている内容をはるかに超えています。

ホセア2章とヨブ1章は、何の関係もありません。

ホセア2とヨブ1は何の関係もありません。

一方は所有物に対する神の主権的な保護を指し、他方は神が所有物を取り除いて人々を苦しめることを指しています。

この2つの聖句に共通しているのは、どちらもいばらの垣根を祈ることを教えていないことです。

誤った聖書解釈

生け垣の祈りの実践が、聖書からどのように「派生」しているかに注目してください。

「生け垣」という言葉は、全く関係のない2つの箇所で言及されています。

そのうちの一つには、いばらのことも書かれています。

ですから、私たちは人々を守るために、いばらの垣根を祈ることができるはずで

え?! もし私が、誰かをサタンから守るために、その人の隣に塔を祈らなければならないと言ったらどうでしょう。

塔がある人にはサタンは攻撃できないからです。なぜそう言えるのでしょうか?

聖書の中で、塔は防御のためのものだからです。

どの聖句がそう教えているのでしょうか?

聖書では、守るための塔について書かれていますが(詩篇61:3)、同じ詩篇では祈りについても書かれています(1節)。

ですから、私たちは、サタンがうまく攻撃できないように、人々を守るために塔を祈るべきです。

もし私がそのような愚かなことを教え始めたら、あなたは当然、私が聖書を捻じ曲げて、ありもしない教義を作っていると非難するでしょう。

聖書の中にある言葉が出てきただけで、その言葉に私たちが割り当てたいどんな行為も容認されるわけではありません。

私たちは常に、「その文章は何を教えているのか」と問わなければなりません。

私たちが調べたどの箇所も、現代の人々の周りに垣根を作って祈ることとは少しも関係のないことを教えています。

保護のための祈り

では、保護のための祈りはどうでしょうか。神が私たちを見守り、霊的な敵の攻撃から守ってくださるように祈ることは、聖書に反するというのでしょうか？

そんなことはありません（エズラ8：21-23）。

自分や他の人のために守ることを祈るのは悪いことではありません。

詩篇には、敵からの保護を求める祈りの記述がたくさんあります。これらの祈りは、垣根やいばら、あるいはサタンや悪霊とは関係ありません。

キリストの国を発展させたり、サタンの働きを止めたりするために、誰かや何かの周りに「いばらの垣根を祈る」ことが必要だと教えるのは、聖書に反しています。

特定のマントラの祈りを、サタンとの戦いにおける効果的なツールとして宣伝することは聖書に反しています。

私は、ホセア2：6とヨブ1：10の乱用を問題にしています。これは中心的な問題です。

Reforming Prayers

確かに、聖書的には正当化できないかもしれませんが、それが本当に重要なのでしょうか？

私たちは毛嫌いしているだけではないのでしょうか？

確かに、神様は私の言いたいことを知っていて、その祈りに答えてくれるのでしょうか？

人の周りにいばらの垣根を祈り続けることに何の害があるのでしょうか？

害はないかもしれませんが、良いことがありますか？

並木を祈ればいいじゃないか。なぜ草原を祈らないのでしょうか？

サタンが私たちにたどり着くまでに時間をかけて移動しなければならないような大きな草原を。

トマトの苗を輪切りにして祈ればいいのでは？サタンはトマトの苗が嫌いなのかもしれません。

生意気なことを言って申し訳ありませんが、私は愚かであることで愚かさを説明しようとしているだけです。

いばらの生け垣を祈ることは、トマトの苗を輪切りにして祈ることに比べて、聖書的な保証はありません。

聖書的な保証がないのなら、なぜそれをするのでしょうか。

なぜ、人に教えたり、人のモデルになったりするのでしょうか？

私たちは、聖書に導かれた祈りをしたいのです。

私たちは、最高司令官の指示に従って、この戦いを進めたいのです。

私たちは、聖書に基づいた祈りをするに関心を持つべきです。

聖書の教えが私たちの祈りを導くべきです。私たちは、聖書の言葉を用いて、聖書に啓示されている神の御心に適うことを祈るべきです。

さて、私は神の民を守ることが神の御心であると信じています。

神はどのようにそれをなさるのでしょうか？

それは、真理によってなされるのです。私たちが真理を受け入れ、真理を理解し、真理を生き、真理を用いるとき、私たちはすべての思いをキリストの従順に捕らえ、効果的な戦いをしていることとなります（2コリント10：3～5）。

私たちは、パウロのように人々のために祈ることができます（エペソ1：15～23、3：14～19、ピリピ1：3～11、コロサイ1：9～12）。

私たちは、想像上の茨の垣根ではなく、真理によって行われる人の心をめぐる戦い、すなわち真理戦争に参加していることを忘れないでください。

危険にさらされている人を神が主権を持って守ってくださるよう祈ることは、聖書的です。

神がサタンの影響や力から誰かを解放してくださるよう祈るのは聖書的です。

神が誰かを真理の知識と愛に導き、嘘から解放してくださるよう祈ることは、聖書的です。

男性も女性も真理を聞き、真理を理解し、暗闇から光へ、サタンの王国からキリストの王国へと救い出されるよう祈ることは、聖書的です（使徒26：18）。

これらはすべて聖書的で、知的で、意味のある祈りです。

逆に、「いばらの生け垣」を祈ることは、意味のあるものでも、聖書的なものでもありません。

それは、聖書の様々な箇所にとまたま出てくるいくつかの言葉をつなぎ合わせて、祈りの武器として使っているのです。

そのような祈りをサタンは恐れません。

結論

もう一度言いますが、もし私たちの最高司令官が、このような方法で戦争を遂行することを私たちに命じていないとしたら、私たちはそれをする必要があるのでしょうか？

私たちは司令官よりもよく知っているのでしょうか？

我々の方法が司令官よりも優れていると思込むのか？

もしこれが効果的な戦争の道具であるならば、主は私たちにそれを教えてくれたと思いませんか？

神に委託された慣習を確立するために、節を文脈から切り離し、その意味を乱用しなければならないのでしょうか？ 決してそうではありません。私たちの戦いの武器は、肉的なものではありません。